



東小だより

横浜市立東山田小学校
学校だより9月号
令和2年8月31日発行
TEL (594) 4851
<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashiyamata/>

ポジティブに考え自分や友達を大切にできる子に



校長 宇都宮 桂

9月に入ります。天気予報では、全国的に平年より高く厳しい残暑が続くようです。体育の授業では、暑さ指数を見ながら、休憩をとったり、水分補給をしたりしながら進めています。

さて、オリンピックで期待をされ、闘病生活を送っていた競泳の池江璃花子選手が、8月29日に594日ぶりに競技会に出場し、目標に掲げていた日本学生選手権（インカレ）の派遣標準記録を突破することができました。闘病生活を経て、ようやくたどり着いた復帰レース。池江選手の闘病生活から大会に出場できるようになるまでの中で、特に素晴らしいと感じたことをお伝えします。

■当たり前のしあわせ

池江選手を襲った突然の病気一。2019年2月に急性リンパ性白血病と診断されました。入院中に、1人でトイレに行けない時期があり、1人で行けるようになったときは感動したそうです。そして、泳げなかったときのことは絶対に忘れない。泳げるって幸せだと絶対に思うと話されていました。当たり前のことが、当たり前じゃなくなったとき、それができるようになるとすごく幸せを感じる一。まさに、with CORONAのこの時代、授業や給食等、今の子ども達が実感していることと同じだと感じます。

■ありのままの自分

今年の5月に池江選手は「今のありのままの自分を見てもらいたい」とウィッグを外し、ショートヘアを公開しました。「1年前、私自身自身との戦いに絶対負けないと誓いました。アスリートの仲間にとっても、また同じように苦難と戦っている誰かにとっても、小さな希望になればうれしい」と綴っています。ありのままの姿、今のこの髪の毛、自分自身に誇りをもっている池江選手の姿に、生きる力強さを感じずにはられません。このような考え方、気持ちの強さが少しでも子ども達にももてるようになればと思います。

■プラス1

東京五輪まで1年後に迫った7月23日には、新国立競技場で世界のアスリートらにメッセージを送りました。「希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても前を向いて頑張れる。今日、ここから始まる1年を単なる1年の延期ではなく、「プラス1」と考える。1年後の今日、この場所で、希望の炎が輝いてほしい」と語りました。これもできない、あれもできないと今年の1年はずいぶんネガティブになりがちで、また、心が落ち着かないところがあるかもしれません。しかし、池江選手の「未来志向で前向きな考え方」は、とても見習いたいと感じ、また、子ども達にも伝えたいと考えました。

池江選手の言動は周りの人をポジティブにできる、元気にできる、スマイルにできる力があると感じます。子ども達もそのようなポジティブな気持ちをもつことができればと願います。そのためには、学校生活の中で、自分も友達も大切にできる子を育てていきたいと考えました。そこで、学校生活のあらゆる場面で、思いやりの心を持ち、相手の立場に立って考えたり、相手の考えや思いを受け止めたり、お互いに支えあうことの大切さに気付いたり、自他の価値を尊重しようとする態度を育てたりする等を行っています。

今年度、ソーシャルディスタンスを取るために人と関わる場面設定に難しさがありますが、それでも距離をとった中で、友達と関わり、相手の話をしっかり聞いてよさを発見したり、友達の活動を見て賞賛し、自分に生かそうとしたり、自他の価値を尊重しようとする姿が見られています。前期末になりますが、今後も自分や友達を大切にできる子を育てていきたいと考えます。

池江選手の出場した大会は無観客でした。そして、レース後、池江選手は歩きながら涙を流しました。本校の運動会では、子ども達の演技のあと、保護者の方からたくさん拍手をいただき、満天のスマイルで退場する子ども達の姿をご覧いただきたいです。保護者や地域のみなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

